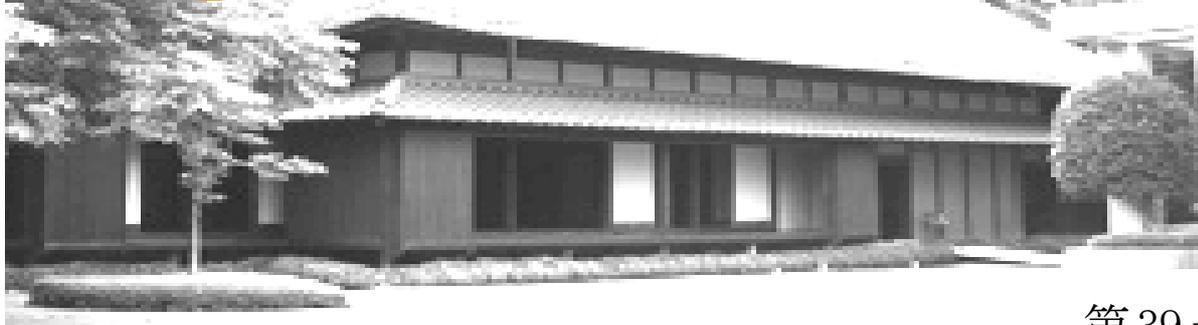


宮代町郷土資料館だより

えんがわ



第39号

企画展 みやしろの動物たち ～けもの・鳥・昆虫～

今日、宮代町は3つの駅を中心に市街地が形成され都市化が進む一方、田や畑、林、屋敷林といった古くから続く景観や豊かな自然が残されています。このような環境の中に、さまざまな動物たちが生息しています。

今回は、宮代町郷土資料館、埼玉県立自然の博物館との共催により、普段何気なく目にするもの、あるいはなかなか近くで目にするものが出来ないものなど、色々な動物たちを展示しています。宮代町に生息する多くの動物たちを知っていただくと共に、動物たちに目を向け、身近な自然への関心を深めるきっかけとなればと開催することになりました。10月24日(日)まで開催しています。

みやしろのけものたち

町内に近年まで生息していたと考えられるほ乳類としては、ホンDIGツネやニホンアナグマなどがあげられますし、ホンDIGタヌキは現在でも町内のどこかで世代を繰り返しているでしょう。また、最近では外来種のアライグマやハク

ビシンの捕獲例もあります。ホンDIGイタチは今でも河川敷などで姿を見かけることがありますし、アズマモグラもあちこちにお馴染みのモグラ塚を作っています。

夏の夕暮れに町内を飛び交うコウモリはアブラコウモリという種類で、これも身近なほ乳類の一種です。

爬虫類ではニホントカゲやニホンカナヘビ、ニホンヤモリなどが生息しており、両生類ではアマガエルやトウキョウダルマガエル、外来種のウシガエルなどが町内で見られます。



みやしろの鳥たち

宮代町では、年間50種を超える野鳥が見られます。これらの野鳥は、繁殖のために夏に日本へ渡ってくる夏鳥、より寒い地方から日本で冬を過ごすために渡ってくる冬鳥などの渡り鳥、スズメやカルガモのようにずっと同じ地域で生活する留鳥など、その生活パターンによっていくつかのグループに分けられます。

宮代町で見られる代表的な夏鳥はツバメです。早い年では3月中には姿を見せ、軒先などで巣を作ります。時々そのツバメの巣を襲うこともあるカラスは留鳥に区分され、くちばしの太いハシブトガラスとくちばしが細めのハシボソガラスの2種類がいます。埼玉県の鳥としてコバトンのモデルにもなっているシラコバトも留鳥の一種です。

冬に、垣根の棒の先に止まってチッチッと鳴くのはジョウビタキという冬鳥で、鮮やかな栗色と羽の白い紋が印象的です。



みやしろの昆虫たち

埼玉県からは、これまでに1万種ほどの昆虫が記録されています。昆虫の間には、アゲハチョウやカブトムシなどの大型種から1mmにも満たない微小な種まで、様々な大きさの種が、雑木林や草むら、土の中など多様な環境の中で生活しています。宮代町でも丹念に探せば、きっと数百種類の昆虫を見つけることができるでしょう。

これまでの記録を調べてみると、チョウは50種類ちかくが宮代町から記録されていますし、トンボも15~20種類くらいはこの町に生息しているようです。

また、地球温暖化の影響で、以前の宮代町では見ることができなかった昆虫類が少しずつ増えてきていることも最近の話題です。例えば、幼虫が庭や公園のパンジーを食い荒らしているツマグロヒョウモンというチョウは、10年ほど前には埼玉県ではまったく見られないチョウでしたが、今では宮代町でもあちらこちらで見かけるようになりました。



埼玉県最古の鍛冶工房跡と宮代町唯一の城跡の報告書が完成

この度、宮代町郷土資料館では埼玉県最古の鍛冶工房跡が出土した山崎山遺跡を含む、『山崎遺跡・山崎山遺跡』と宮代町唯一の城跡である『伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡』の発掘調査報告書が完成しました。

山崎山遺跡は平成2年に発掘調査が行われ、発掘当時、東日本最古の鍛冶工房跡が発見され話題となり、新聞にも数多く取り上げられた遺跡です。約1,600年前の宮代の地で大和朝廷とも関係がある鉄の加工が行われていたことは、非常に宮代の歴史にとっても重要なことといえます。

山崎遺跡は新しい村建設等で発掘調査が行われ、縄文時代早期（約7,000年前）と後期（約3,700年前）の住居跡や江戸時代前期の役所や陣屋跡と推定される堀が発掘されました。

伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡は平成13年と15年に発掘調査が行われ、宮代町で唯一の中世城郭跡が発見された遺跡です。江戸時代初期には旗本服部権太夫の陣屋としても使われました。調査の結果、戦国



時代から江戸時代初頭にかけての堀や土塁、井戸、中国産や瀬戸美濃産の陶磁器、和鏡などが発掘されました。

『山崎遺跡・山崎山遺跡』は2,000円、『伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡』は1,500円で郷土資料館で頒布しています。

みやしろ歴史ウォーク（歴史散歩）を開催！！

平成21年度は、日光街道の宿場である杉戸宿や粕壁宿、幸手宿を歩きましたが、今年度は宮代町内の文化財はもとより、食やグルメについても対象として、「宮代のすべてを知ろう」をテーマに宮代町産業政策担当と連携し、みやしろ歴史ウォークを開催しています。

まず、1回目は平成22年6月26日に山崎山や笠原沼周辺をコースとして歴史散歩を実施しました。山崎山のトラストの森や笠原沼新田に関わる用水施設では「このようなところに文化遺産があることを初めて知った」という参加者もいました。新しい村では、担当者の説明を聞きながら、ラベンダーネードを試飲したり、コースの最後の方には、現在、宮代町で売り出し中の「みやしろ棒ギョーザ」や「みやしろ餃子」などを試食したりと、今回の歴史散歩は歩いた分だけお腹も満たされたようでした。

郷土資料館と産業政策担当は今後、10月から3月頃（予定のため変更あり）にかけて、2～3回の



歴史散歩の風景（新しい村での説明）

歴史散歩を計画していますので、是非ご参加ください。予定としては鎌倉街道を散策するコースや江戸時代の絵図を見ながら歩くコースなどを考えています。

今年の特別展は「江戸時代の絵図」を開催！

～百間3カ村絵図と幸手領絵図を初公開！！～



1750年頃(江戸時代中期)の百間村絵図

宮代町郷土資料館では、平成22年度の特別展として「江戸時代の絵図」を計画しています。宮代町には旧百間村地区を中心に数多くの絵図が伝えられています。中には笠原沼をめぐる水争いの絵図や幸手領の絵図、埼玉郡の絵図、そして最も多いのが村絵図です。村絵図は村が幕府や領主に対して願書を出す際に証拠書類として添付するものなどに使用するため、約2m四方もある大型の詳細な絵図から略図のような簡単な省略された絵図までいろいろと

あったようです。この他にも明治初頭の墨で書かれた略図や地籍図、墓地の配置図、新田の分布図、願書を分かりやすくするための見取り図、領主から拝領したと推定される城絵図なども見つかっています。

大型の絵図の中には、旗本池田氏の領有した百間3カ村絵図があります。これは3m四方もある大型のもので、百間中島村、百間中村、百間須賀村の3カ村を中心に百間村と須賀村全体を描いたものです。この絵図は今回の展示が初公開となります。

また、宮代町の東側に隣接する久喜市(鷲宮町)東部、幸手市、杉戸町、春日部市北部に所在した幸手領の絵図も非常に貴重なものといえます。この絵図は2m50cm四方もある大型なもので今回の展示会が初めての公開となります。

この展示会の会期は10月30日(土)から12月26日(日)です。併せて、絵図を使った歴史散歩や郷土史講座も企画していますので、是非ご来館ください。

資料館日誌抄

- 1月9日 企画展「収蔵品で語る宮代の農耕」(4月18日まで)
- 4月24日 企画展「山崎遺跡発掘出土品展」(7月11日まで)
- 5月18日 道仏北遺跡発掘調査
- 5月18日 山崎遺跡発掘調査(5月21日まで)
- 5月22日 宿源太山遺跡試掘調査
- 6月22日 第1回文化財保護委員会
- 6月22・23日 チャレンジ2days(前原中学校)
- 6月26日 みやしろ歴史ウォーク(山崎山・笠原沼)
- 6月27日 出前講座紙すき(山崎地区子ども会)
- 7月7・8日 チャレンジ2days(須賀中学校)
- 7月8・9日 チャレンジ2days(杉戸中学校)
- 7月17日 企画展「みやしろの動物たち」(10月24日まで)
- 7月30日 土器づくり教室(土器づくり)

資料館寄贈者名簿

- 齊藤 良吉 氏 民具、資料
- 岩崎 勝 氏 民具
- 松田 典男 氏 民具

宮代町郷土資料館だより えんがわ 39号

発行日 平成22年8月1日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>